

瀋陽駐在員事務所

増える日本人

瀋陽日本人会の会員数が増えている。今年3月末時点で、法人会員は95社だったのが、15社増えて110社になった。瀋陽日本人会設立以来初めて100社を超えた。ここ数年、瀋陽の投資環境が整備され、日系企業の瀋陽への注目度、瀋陽の知名度が上がったことの現れである。今年中に20社以上が進出すると予想されている。個人会員は、3月末の355名から89名増えて444名になった。個人会員数が400名を超えたのも瀋陽日本人会設立以来初めてである（日本人会未加入者を加えると在留邦人は800名程度）。なかでも駐在員の家族である「家族会員」が21名増えたのが特徴的である。このことは、瀋陽の投資環境に加え、生活環境が改善されていることを示している。瀋陽駐在とといえば単身赴任が当たり前だったのが、家族が不自由なく暮らせるようになったのだから格段の進歩である。確かにここ数年で日本料理店が非常に目に付くようになったし、日本の食材も手に入る。単身赴任歴5年の小職としては非常に有難いことである。そろそろ家族を呼び寄せようかな・・・。

正司 毅

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

もし風邪を引いたらどうするか？



皆さんがもし海外旅行に行ったとして、最大の心配事はおそらく「体調を崩したらどうするか」だと思います。小職も最初は日本から大量に風邪薬を持っていきましたが、今は現地の薬局で買う様になりました。中国は漢方の国、という事で漢方ベースで作った風邪薬「中药（ジョンヤオ）」と、日本でお馴染みの欧米諸国で一般的に服用されるような「西药（シーヤオ）」という二つのジャンルから選ぶ事になります。一般的に中药の方が副作用は少ないものの、効き目はやや弱いと言われています。そして飲む錠数が一般的に多く、以前喉を痛めた時に飲んだのは「1回20錠飲んでください」と書いてあり目を疑いました。症状が重い場合は西药を勧められます（写真がそうです）。

では薬では済まない様な病気、怪我をした場合どうするかという事ですが、日本の駐在員の多くは「医療仲介サービス」というのを利用します。何かが起こった際、そのサービスをしている会社に電話をし、症状を伝えるとそれに対応してくれる病院を紹介してくれます。全て日本語です。そして病院に行くとその会社の人が待っていており、手続き、医者との通訳、はたまた支払いの為の保険手続きまで代行してくれます。小職は何回もお世話になっており、外国での生活の不自由さを幾度も補ってもらいました。病院も外国人が行く様なところは比較的綺麗でサービスもそれなりです。

そしてこのサービスを使い、小職は扁桃腺の手術を受けた事があります。全身麻酔の手術でしたが、「中国の医療を体験してみたい」と思い、日本ではなく敢えて中国で受けてみました。ですが、中々大変な事に・・・この続きは次回のとびっくすにてご紹介します。

中島 康成

ユジノサハリンスク駐在員事務所



初めての海外赴任で・・・PARTIV

写真上段に見る通り、我が北海道銀行の事務所が立地する周辺道路もやっとインフラ整備が開始された。歩道は砂利道で車が通る度に土煙が舞い上がり、当事務所にはクーラーが付いていないため窓を開けっ放しにしていると、4Fにも関わらず机や床が埃だらけとなります。



そんなある日、私が事務所の応接でランチを食べていた時、「ガチャーン・ドーン」という大きな音が地響きとともに聞こえました。丁度、事務所の真下で正面衝突が起きました（写真下段：事故3分後）。それからパトカーが来たのが2時間後で、ロシアでは警察が来るまで、事故現場はそのままの状態にしておかなければならない様です。最終的に車が撤去されたのは事故が起きて4時間後でした。車道が狭い上、路上駐車が多く、更に交差点のど真ん中で正面衝突。4時間放置により、その間道路は大渋滞。最近、こうした事故現場を良く目にします。ちなみに、ロシアの交通事故死者数は人口10万人当たり23.0人で日本の6.7人に対し約4倍近い数字となっており（総務省統計局「世界貿易統計(2009)」より）、まさしく戦場並みの危険な場所と言えるかも知れません。

これから初めて経験する冬に向かってわが身が心配になってきました。

三上 訓人